

新宮山彦ぐるーぷ第2379回

行仙宿、金峯山寺行者の接待

◇実施日 7月28日(月) 晴

◇参加者 沖崎吉信、阪口雄二、松本吉殖、西克、杉本和巳、梶

野照雄、越野智子(日帰り) 村吉光夫(二泊) 8名

金峯山寺行者；田中岳良、植平晋善、野村朗、江崎昌典、森乗遍

5名

植平さんから「行者5人で南奥駆を歩く、持経宿で泊まって翌日行仙宿に宿泊したい」と連絡があり、沖崎さんに伝えて5人分の夕食弁当を用意してもらった。



登山ロスタート

発電機を降ろす

気温は26℃

午前9時半前、登山口に着くと村吉さんは到着済みで、暫くして

新宮組も到着した。ガソリン缶2個、水20リッター2、7リッター

12、夕食弁当などの荷物を積み登り始める。月曜日なので参加者は少ないと思っていたが、久しぶりの越野さんを含めて8名の方々にご参加いただいた。荷物の数が多く、一度では運びきれないので、数名の方には2往復していただいた。チェーンソーとガソリン缶を持って小屋に着き、空になった発電機にガソリンを入れ始動してみた。エンジンはすぐにかかったが、プライマリーポンプからガソリンが噴き出してきた。硬化してひび割れているようだ。すぐにエンジン止め、ガソリンを抜いた。プライマリーポンプの交換には分解が必要なので、持ち降ろすことにした。阪口君が背負子でコマツハウス(コジマハウスから改称)まで運び降ろしてくれた。午前11時過ぎ、植平さんから「怒田宿跡で休憩中」と電話があった。



お堂で勤行

本日の参加者

小屋の北側にあった古い丸太を玉切りして、8月の東大生用に小屋南まで運んだ。手伝ってくれる人が多いので時間はかからなかつ

た。越野さんはホウキであちこちを掃除してくれ、周りはきれいになった。

お昼過ぎ、5人の行者さんが到着。お堂で勤行された。5人は途中で昼食を済ませたというので、我々も昼食を摂る。午後2時前に日帰り組が下山。



丸太発見

熊剥ぎの跡が

捲き道分岐の倒木

行仙岳の北側に倒木があることがネットのレポートで判っていたので、植平さんらに位置を尋ねて、処理に向かった。村吉さんは段差補修用の鉄筋を担いで先に出発された。小屋北の急登を登り切った所に熊剥ぎの跡が残る木がある。奥駈道の直ぐ傍なので安心はできない。付近に手付かずの古い丸太が5〜6本残されている。玉切りしても運ぶ距離が長いので、時期を見て縦挽きして板にしようと思う。行仙岳山頂経由で北進した。倒木は北側の捲き道分岐にあった。直径10cm強の枯木で、重さに耐えきれず折れたようだ。5〜6カ所を切断し、動かせるサイズにして排除した。



処理完了



下山開始



バッグを回収

帰りは捲き道を経由したが、異常は見られなかった。小屋に戻り暫く休憩、岳良さん等と話をしていると、外にいた村吉さんが、沖崎さんから電話というので、急いで出てみると「バッグを忘れてきたので回収して欲しい」ということだった。小屋内外を探したが、何も見つからない。村吉さんが聞いたところによると、どうやら登山口らしい。村吉さんにあとをお願いして下山を始めた。コマツハウスも念入りに探したが、何もなかった。登山口の階段まで来ると下のベンチにバッグが見えた。バッグを回収して浦向迄降り、沖崎さんに電話。そのまま新宮まで走り、バッグを届けて帰宅した。

(記：梶野)

行動タイム

09:25 補給路登山口→10:23 行仙宿 14:00→14:35 行仙岳→14:

42 北側捲き道分岐 14:55→15:40 行仙宿 17:00→17:39 補給路
登山口→18:02 浦向→19:05 新宮